

『坂の上の雲』まちづくり市民塾（第三期・後期後半）

実践編「企画・実施を体験しよう」

後半第5回議事録

□日 時：平成19年2月9日(金) 19:00～21:00

□会 場：コムズ 会議室3

□参加者：11名

《内訳》

- ・塾 生 5名（森亮一・武田裕美・立田卓也・岩井仁茂・三好尚美）
- ・スタッフ 4名（前田眞・郡司島宏美・森本しげみ・長尾弘子）
- ・庚申庵倶楽部 1名（事務局 渡部さん）
- ・松山市坂の上の雲まちづくりチーム 1名（川崎義昭）

□内 容

・市民塾次回の日程について 前田 眞

- ・2月21日に予定していた市民塾の最終回（松山市からの報告や、市民塾のふりかえり・評価）ですが、坂の上の雲まちづくりチームの松本部長のご都合により、日程変更になりました。出席の皆様との日程調整により、2月27日（火）19～21時になりました。会場については、後日事務局から連絡します。

《会場風景》



・シミュレーション

ファシリテーター：武田さん

- ◆今日のテーマ「山の辺の道と庚申庵のネットワーク・・・新緑ウォークを基に」
- ・前回出された山の辺の道の5月6日(日)のイベント“新緑ウォーク”の具体的な協働の内容を詰めていきましょう。

□意見交換

○新緑ウォークプラン

9時 JR松山駅出発

参加者は予約なしの現地集合。人数は会員と一般の参加者約30名の予想
(※庚申庵としては、人数の増減への対応は当日可能である)

9時15分から庚申庵で説明(15分位)

山の辺の道の会員が一般の参加者を誘導。説明は外で立つて行う。

○今回の協働事業のメリット・デメリットは何か

	山の辺の道	庚申庵
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的なポイントが増える(詳しい説明付) ・トイレ休憩ができる ・お茶が飲める ・イベントのPRができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人を呼んできてくれる ・庚申庵の周知ができる ・スタッフが参加することでウォーキングのノウハウを学ぶことができる ・松山市内の歴史的なポイントについて学ぶことができる ・イベントのPRができる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかる(全工程の中で) ・俳句に興味のない人にとっては面白くない 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝早く開けないといけない ・人数が多いと対応に工夫がいる

○共通点として考えられること

- ☞ターゲットを共有することができる。
- ☞会員を共有することができる
- ☞情報提供・共有ができる。
- ☞場を楽しんでもらうことができる。
- ☞マンパワーを共有できる。

○その他の意見

- ・庚申庵の年間スケジュールを山の辺の道に提供して事前情報を提供する。
- ・メリット・デメリットよりも継続していくことが大事。
- ・情報提供の協働として、今回のイベントを庚申庵から発信することもできる。
- ・庚申庵でお弁当を食べることはできる。実際食べる方はいる。汚さない事、ゴミの始末を前提として。
- ・相互会員共同でお茶を出すことができるのではないかな。
- ・新緑ウォークのテーマ・コースを庚申庵と事前に共有しておくことで、テーマに沿っ

た話（一茶との関係として、一茶と松山、北条や一茶と樗堂等）を庚申庵でもらうことにより、さらにイベントが盛り上がるのではないかと相乗効果がある。

○山の辺の道の活動のグレードアップについて



《人的資質》 会員全員がガイドできる＝コンシェルジュを目指す。

《楽しさ等の提供》 歩いて魅力ある道、原点である見史遊康連の道を具体的に充実させる。

○情報交換の手法について

↳メール・FAX・電話。担当窓口は渡部さんと森さん

○情報提供について（松山市の現状）意見が出された

①交流人口に対する課題・・・どこに観光情報が置いてあるのかわからない。観光案内所は2カ所（道後とJR松山駅）ある。観光案内の充実が望まれる。坂の上の雲記念館にインフォメーションセンターができるので、その機能に期待したい。

②地域住民（市民）に対する課題・・・関心の喚起をどのようにするか



複数の団体で提案できることもあるのではないかと

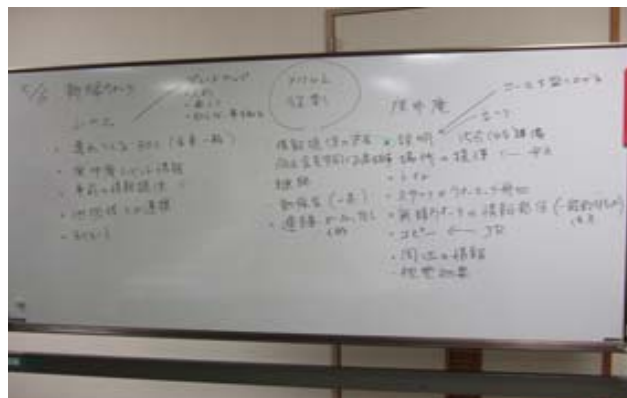
○2 団体間の情報共有・提供

- ・庚申庵コピー機を有料で貸し出せる・・・チラシ等の印刷に利用してもらう
- ・山の辺の道は、裏道を歩くルートである。そこに歴史や文化的なポイントが多く残っている。庚申庵の周辺情報も提供できる・・・共通性があるのではないかと
- ・お互いに知りえないことを情報交換することで、新しいルートづくり（道後発庚申庵着）ができる可能性がある。

Ⅲ. ふりかえり(8:40～)

武田さん

- ・今日の議論を振り返り、整理する



<武田さんが書いたもの>

IV. まとめ(8:45～)

前田 眞

○協働について

- ・ 団体間の合意形成には、ミッションの確認が必要であり、ミッションの共有がお互いの協働活動につながる上で意味があることだ。
- ・ 2団体のミッションの共有で、できることは何か
 1. 情報交換をする・・相乗効果を上げる
 2. ウォーキングに参加する・・実際の体験の共有
 3. 場所を提供することができる(庚申庵)・・地域の憩いの場を提供する(トイレ・お茶)
 4. テーマに沿った話をしてもらえる・・参加者に感動を与える
 5. マンパワーを共有できる・・会員の交換(イベントなど)でグレードアップ
 6. 勉強会をする・・知識の交換・供給
- ・ 今後もお互いの活動の中でやっていけるといいのではないかな。勉強会を重ねるのもいいと思う。



《前田先生のまとめたもの》



V. 2団体間のネットワーク化、連携のシミュレーションを終えての参加者の感想(8:50～)

- ・ ミッションを頭にいれ、お互いを思いやること、モチベーションを疲れない程度に持ち続けることが大切だと思った。連携には時間がかかり大変なことだと思った。
- ・ 皆さんの意見を聞き勉強になった。これを活動に活かしたい。
- ・ 参加する人のおもいにすべて答えようとは思わないこと。
- ・ お互いの共通項があり、連携の兆しが見えてきた。
- ・ マッチングする場があればいいと思う。その時、コーディネーターのスキルがとても重要である。足とアンテナを使い自分の感性で結び付け、その場を作れるフットワークの軽さが要求されるのではないかな。
- ・ マッチングのきっかけが難しい。普段の活動では団体同士だけでは勇気があることだ。
- ・ 山の辺の道の活動を広げるために、拠点となる所どこにでも首を突っ込み繋げていっている。
- ・ ネットワークを広げるためには行動力が必要だ。
- ・ 庚申庵に質問窓口を作ればいいのではないかな。
- ・ ミュージアムでこのような活動の場が提供できる環境を整えるよう努力したい(松山市)

武田さんの感想

コーディネーターとして落としどころを持っていないと、中間支援も逆効果になり混乱させることになる。そのためにスキルアップしないといけないと思った。